

文教厚生委員会視察報告書



(水戸市立国田義務教育学校 (さわやか国田学園))

平成 29 年 7 月

文教厚生委員会視察報告書

目次

I 視察報告概要	1
1 視察日程	1
2 視察先及び視察事項	1
3 視察の目的	1
4 水戸市立国田学園義務教育学校の取り組み	1
5 視察参加者	2
6 視察研修の様子	2
II 視察内容	3
1 国田義務教育学校の整備に係る取り組み状況について	3
（1） さわやか国田学園の概要について（担当：国田義務教育学校、学校教育課）	3
（2） 事前質問の回答について（担当：学校教育課、総合教育研究所）	7
（3） 視察用授業参観及び施設見学について（担当：国田義務教育学校）	8
（4） 質疑応答（担当：国田義務教育学校、学校教育課、総合教育研究所）	10
III 委員の感想等 ～ 視察を終えて ～	11
1 水戸市立国田義務教育学校の整備に係る取り組み状況について	11
2 その他	11

Ⅰ 視察報告概要

1 視察日程

平成29年7月5日（水）午前9時30分

2 視察先及び視察事項

視察先

水戸市立国田義務教育学校（さわやか国田学園）

視察事項

水戸市立国田義務教育学校の整備に係る取り組み状況について



（水戸市立国田義務教育学校昇降口）

3 視察の目的

少子化・高齢化に伴い人口が減少し、市内小・中学校においても児童・生徒数の減少傾向が続いています。本市においても、一部を除く小・中学校でも小規模化が進行している現状を踏まえ、よりよい教育環境をつくるため、学校統合による適正規模化に向け取り組んでいます。

そこで、施設一体型小中一貫校^{※1}として20年を迎え、平成28年4月に義務教育学校^{※2}を開校した水戸市を視察先とし、小規模特認校制度^{※3}としての取り組み内容及び課題など先進地の状況を調査し、市内小中一貫教育の実施に向けた取り組みを研究することを目的とするものです。

4 水戸市立国田学園義務教育学校の取り組み

国田義務教育学校（旧：国田小中学校）は、県内初の施設一体型併設校として平成7年度から小中一貫教育を意識した取り組みを20年行っており、平成26年4月に国田幼稚園が移転し、小規模特認校制度を導入しました。近年、全国的にも小中一貫の取り組みが増加していることから、平成27年6月に義務教育学校制度を創設し、平成28年4月に水戸市立国田義務教育学校（さわやか国田学園）を開校しました。

※1 施設一体型小中一貫校（小中連携・一貫教育推進校の設置形態）
同一敷地内または同一校舎内の小中学校による一貫教育

※2 義務教育学校
小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校

※3 小規模特認校
特定の学校を特認校と教育委員会が指定することで、従来の通学区域は残したままで、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度

5 視察参加者

委員長	田 谷 文 子	
委員	古 橋 智 樹	
委員	岡 崎 勉	
同行者	大 山 隆 雄	(教育長)
同行者	飯 田 泰 寛	(教育部長)
同行者	山 内 美 則	(学校教育課長)
同行者	加 藤 洋 一	(同課長補佐)
同行者	岡 野 浩 則	(教育指導室長)
随 行	檜 山 宏 美	(議会事務局)



(水戸市立国田義務教育学校前)

6 視察研修の様子

視察研修は、水戸市立国田義務教育学校（さわやか国田学園）で行われ、水戸市議会事務局の担当者の開会で始まりました。



(田谷委員長 あいさつ)

冒頭に、本多清峰 水戸市教育委員会教育長から歓迎のあいさつと水戸市教育状況の説明があり、吉井由隆 国田義務教育学校長から学校に関する全般的な説明がありました。



(本多教育長 歓迎あいさつ)



(古橋委員 お礼のあいさつ)

次に、水戸市議会事務局の玉田氏の事務取扱の進行により、本日の視察事項について、各担当職員、教職員等（水戸市教育委員会、水戸市総合教育研究所、国田義務教育学校及び学校生徒）から約1時間の説明を受け、その後、視察研修用の授業参観として授業風景と校内施設を約40分見学しました。



(吉井校長 あいさつ)

最後に、事前質問と質疑について約40分丁寧に回答いただきました。

II 視察内容

1 国田義務教育学校の整備に係る取り組み状況について

(1) さわやか国田学園の概要について（担当：国田義務教育学校、学校教育課）

ア 学校概要について

◎ 在籍児童生徒数（平成29年5月1日現在）

前期課程

学 年	男	女	計	内 訳		
				学区内	学 区 外 (小規模)	学 区 外 (その他)
1年	8	6	14	9	5	0
2年	11	10	21	11	10	0
3年	9	5	14	8	6	0
4年	5	10	15	11	4	0
5年	11	12	23	19	2	2
6年	11	7	18	16	1	1
合 計	55	50	105	74	28	3

後期課程

学 年	男	女	計	内 訳		
				学区内	学 区 外 (小規模)	学 区 外 (その他)
7年	9	5	14	13	0	1
8年	14	11	25	20	5	0
9年	11	8	19	16	3	0
合 計	34	24	58	49	8	1

前後期合計 163名（男89名、女74名）

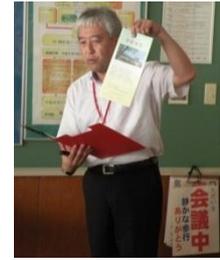
◎ 教職員一覧

校長	1名
教頭	2名
教務主任	2名
ベーシックグレード（1～4年生）	主任、副担任2名、担任4名
ミドルグレード（5～8年生）	主任、副担任2名、担任4名
コンプレッショングレード（9年生）	主任、担任
その他	養護教諭、学校事務、拠点校指導員、 学力向上サポーター、AET、 調理員、支援員、スクールカウンセラー、心の教室相談員

イ グランドデザインについて

9年一貫教育を通して、人のために役立つ人間を育成する

- ・ 自ら考え、自ら行動できる力をもった知性豊かな児童生徒の育成
- ・ 礼儀正しく、他を思いやる気品のある児童生徒の育成
- ・ 勤労を尊び、心身ともにたくましい気概をもった児童生徒の育成



(学校側 説明している様子)

ウ 組織目標について

児童生徒を前面に据えた教育活動を各推進プロジェクトでの実践

かしこさ
知

- ・ 児童生徒が互いの思考を深め合う授業の工夫
ICTの効果的な活用
5年生から一部50分授業、9年生の7時間授業導入

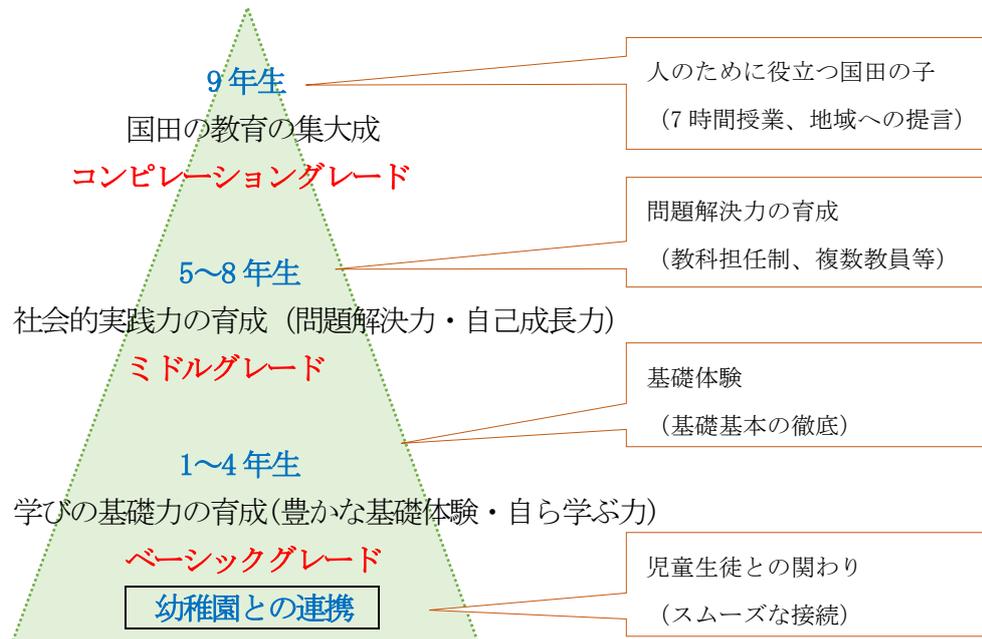
やさしさ
徳

- ・ 豊かな心を育む活動の充実
- ・ 思いやりの心を広げる活動の充実
ボランティア活動
交流活動(異学年、地域、他校等)

たくましさ
体

- ・ 複数担任制
- ・ 発達段階に応じた活動の充実
縦割り班による体育的な活動工夫、食育の充実
- ・ 運動部活動の充実
6年生の早期部活動への参

エ 特色ある教育活動(4・4・1制の教育)について



オ 多様な授業形態による学習指導の充実について

学力の向上を図り、一人一人の才能を伸ばします。

- ① 個に応じた指導の重視（基礎基本、発展・応用）
- ② 複数教員によるステップアップ指導（補習）
- ③ 1年生からT Tによる指導（算数・数学）
- ④ 専門の先生による5・6年生から教科担任制、一部50分授業の導入
（3・4年生は一部教科担任制）
- ⑤ A E T^{※4}による幼児から9年生までのオール・イン・イングリッシュの英会話
- ⑥ 幼稚園を含めたい学園交流授業の充実



（説明を受けている様子）

カ 小規模特認校の制度について

- ① 小規模特認校（平成26年度から）
 - ・ 少人数での教育、きめ細やかな指導、特色ある教育。
 - ・ 市内の全域から通学が可能。
- ② 就学の条件
 - ・ 児童生徒が、水戸市内に居住していること。
 - ・ 国田義務教育学校の教育活動及びP T A活動に賛同、協力すること。
 - ・ 通学は、保護者の送迎または公共交通機関（バス）を利用すること。
 - ・ 国田義務教育学校卒業までの間、在籍すること。



（学校側 説明している様子）

- ③ 募集人数
各学年（1年生から9年生）、在籍児童生徒を含めて、35名以内。
- ④ 小規模特認校の制度を利用児童生徒数（平成29年5月1日現在）

前期課程（1～6年）	28名
後期課程（7～9年）	8名
合計	36名（全体の22%）

※ 平成26年度は10名、平成27年度は23名、平成28年度は36名
- ⑤ 小規模特認校の制度の効果
 - ・ 国田地区以外から通学してくる児童生徒に対して、やさしく接することができていることから、他を思いやる心が育ってきています。
 - ・ 協力的な保護者が多く、地域の活動やボランティア活動に積極的に関わっています。

※4 A E T（Assistant English Teacher）

英語指導助手。日本人の英語教師とチームで授業を行う外国人講師。

→ALT（Assistant Language Teacher） 外国語指導助手。

ク 生徒による学校紹介について

後期課程の生徒たちがスライド映像を使用して、一人ずつ順番に交代しながら映像に合わせて発表を行いました。

- ・学校全体の主な1年間行事
入学式、運動会、翔蚕会（文化祭）、収穫祭、音楽集会、総体選手壮行会
- ・学年ごとの主な1年間行事
遠足、船中泊を伴う自然教室、修学旅行
- ・異学年間での交流事業
縦割り班活動、幼稚園・小学校・中学校交流
6年生を送る会、9年生を送る会
- ・ランチルームでの交流給食
ふれあい給食
- ・タブレットを使用したICT授業
- ・地域との交流活動
田植え、ホテル観察会、環境浄化活動
- ・部活動紹介
剣道部、女子バレー部、卓球部、生物研究部



（生徒による学校紹介を聞いている様子）



（発表後の生徒退出の様子）

(2) 事前質問の回答について（担当：学校教育課、総合教育研究所）

Q 水戸市の小中一貫教育の取り組み内容、課題等について



（教育委員会 説明している様子）

A 水戸市教育施策大綱に定められた基本的方向に基づき、一人一人の確かな学びと夢を実現する水戸スタイルの教育の推進を行っています。

① 小中一貫教育「まごころプラン」

- ・英会話教育の充実（幼児期からの英会話を実施、AETの活用）
- ・郷土水戸に関する教育の充実
- ・芸術館と連携した芸術教育の充実（演劇鑑賞会、音楽会など） など

② 学力向上推進事業「さきがけプラン」

小・中・義務教育学校への学力向上サポーターの配置

③ いじめ解決推進事業「ふれあいプラン」

Q 国田義務教育学校の開校までに係る取り組み状況について

A 平成7年度から地域と一体となった小中一貫教育の取り組みとして、国田小中学校が設立されました。

平成27年度学校教育法改正により、児童生徒や地域の実情に合わせた9年間一貫した系統的な教育課程の実施のため、PTA役員や全保護者、地域住民へ説明を行い、義務教育学校へ移行を決定しました。

平成27年12月市議会定例会で条例改正し、市民へ広報を行い、平成28年4月に義務教育学校へ移行しました。

Q 小規模特認校の取り組み内容、課題等について

A 施設一体型小中一貫校のよさを生かした「国田スタイルの教育」を広く市民に提供する目的で、平成25年9月小規模特認校制度の導入を決定し、同年10月教育委員会で協議し、議会へ報告や保護者・地区説明会を開催し、市民への周知を図りました。同年11月から申請受付を行い、平成26年4月小規模特認校制度の導入となりました。



（総合教育研究所 説明している様子）

(3) 視察用授業参観及び施設見学について (担当：国田義務教育学校)



(職員室内)



(廊下 研究結果揭示物)



(1年1組教室)



(1年1組教室)



(授業参観 風景)



(授業参観 教室移動中)

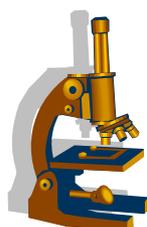
【 ホタルの研究と飼育 】

約40年前に生物研究部の発足時から「ホタルの研究」が行われています。

また、国田地区と三の丸地区と地域交流事業でホタル観察会が開催されています。



(ホタルの飼育)



図書館

図書館に併設して和室があり、児童生徒がくつろぐほか、茶道や琴・尺八の演奏会が行われます。



ランチルーム

3年生から9年生まで、ランチルームで給食をとっています。学期に1度1年生から9年生までの縦割り班での会食を行っています。



講堂

全校朝会や児童総会に使用しています。



その他



(体育館)



(柔剣道場)

(4) 質疑応答(担当: 国田義務教育学校、学校教育課、総合教育研究所)

Q 子どもの団体活動について

A 6年生から早期に部活動を行い、後期課程進級後スムーズに活動できるようにしています。児童生徒数に応じ、現在は剣道部、卓球部、女子バレー部、生物研究部が活動しています。

しかし、団体競技は、児童生徒数が少ないため十分活動できず、以前活躍していた女子ソフトボール部は現在廃部となっています。教科の体育は、学習指導要領に従って行っているため、内

容の制限はなく、そのため、学習課題を追究しやすいよう、人数やコートの広さ、用具等一定の制限を加え、一人一人の運動量を十分に確保しています。



Q 教育カリキュラムの要点について

A 本校は、児童の成長が早くなっている現状を踏まえ、「中1ギャップ」に対応するよう4・4・1制を採用しています。9年生については「高1ギャップ」に対応、国田教育の集大成としてカリキュラムをわけて編成しています。また、教科担任制を採用し、専門性の魅力ある授業を行っています。

Q 副担任の配置について

A 少人数であるが、2人教職員配置により目が届いています。義務教育学校であるメリットで、中学校教員免許をもっていれば、小学校課程の副担任へ配置できます。授業の空き時間を有効活用し、多角的に教職員を配置しています。



(質疑応答の様子)

Q 水戸市幼・小・中英会話教育特区について

A 全市立小学校で、英語に親しみ、英語によるコミュニケーション能力を培うこととしています。そのため、幼稚園から英会話に親しむ機会を提供し、小学校にはAETを配置しています。

Q 水戸市のコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の設置の有無について

A 水戸市立浜田小学校に設置されています。



(萩谷所長 回答の様子)

コミュニティルーム委員会、学校関係者評価委員会、地域連携プロジェクト委員会(商店街・職人プロジェクト委員会、歴史・自然プロジェクト委員会、子育て・交流・祭プロジェクト委員会)の3委員会が活動しています。

Ⅲ 委員の感想等 ～ 視察を終えて ～

1 水戸市立国田義務教育学校の整備に係る取り組み状況について

- ・ 義務教育学校のメリットとして、併設型の小中一貫校ではできない学校運営があることがわかった。そして、その学校運営には、先生方の資質、意識が伴わなくてはならないと感じました。



(会議室内、説明スライド)

- ・ 義務教育学校のメリットについての視察であって、デメリットの説明はありませんでした。
- ・ 今回視察して、小中一貫校について、当初から義務教育学校設立ではなく、国田義務教育学校のように施設一体型小中一貫校から徐々に段階を経た方がスムーズに運営できるのではないかと感じました。
- ・ 国田義務教育学校同様の時間をかけられないため、当市の小中一貫校の基本方針を早く策定する必要があると感じました。
- ・ 生徒たちによる学校紹介が、スライド映像を使用して、日常生活をわかりやすく説明があり、よく理解できました。
- ・ 地域住民とのコミュニティをもった学校づくりについて、本市も参考にして取り組むべきであると感じました。
- ・ 英語教育が義務化されます。水戸市のまごころプランである幼児期から一貫した英会話教育を参考に、これからは英会話ができる英語教育が必要であると感じました。

2 その他

水戸市立国田義務教育学校は、平成7年4月国田小中学校を開校し、平成26年4月小規模特認校制度を導入し、平成28年4月義務教育学校を開校しました。

本市においても人口増加が見込めない状況があり、少人数での教育の良さを生かし、きめ細やかな指導や特色のある教育を行うことにより、学区編成することなく市内どこからでも就学できる制度に取り組みは、よりよい教育環境となっていると感じました。



(昇降口から校庭)

本市にとっても、児童・生徒によりよい教育環境を確保するために、地域にあった取り組みを早急に進めなければならず、学校統合による小中適正規模化を目指すうえで、今回の視察研修は有意義なものでありました。